



私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.52

「退職後は地域への恩返しを」の 思いで、郷土の歴史探訪本を出版



元袋井市職員

西郷 勉さん (74歳) 2010年定年退職

【さいごう・つとむ】1949年、静岡県出身。東京の大学を卒業後、民間企業に就職したが、郷里に帰り袋井市役所に入庁する。出納室長、市民課長、環境政策課長などを歴任後、2010年に定年退職。最初の配属先が文化財などを担当する部署であったことから、郷土の歴史に興味を持つ。小さな地方都市でも誇れるような大きな歴史があったことを知り、この地の歴史探訪を始めた。

—西郷さんは静岡県・袋井市役所を定年後、再任用で65歳まで働かれたとのことですが、65歳以降は何をされているのですか。

現役時代は地域のために何もできなかったんですが、その分、退職後は地域への恩返しとして、小さなことでもよいから何かできないかと思うようになりました。その一つとして、地元町内のまとめ役である自治会長を65歳の時に引き受けました。従来の慣例主義を中心とした自治会活動だけでなく、より開けた自治会とするため『自治会だより』を新たに発行し、情報の共有化や住民の自治意識が高まるように工夫しました。

また、高齢化が進み、高齢夫婦のみの世帯や単身世帯が増加する中で、そのような方々の生活上の困り事や心配事などを解決するため、行政との橋渡し役として民生委員と児童委員を2期、6年間担当させていただきました。

いずれも今は引退しましたが、小学生が登下校時、交通事故に遭わないよう見守るスクールガードのボランティア活動は8年前から現在まで継続しています。この活動は児童と一緒に小学校まで歩くため、自分の健康にも良く、一石二鳥です。今後もある限り続けていきたいと思っています。

その他、郷土史研究グループに所属して活動したり、趣味のピアノを弾くことなどを楽しんでいきます。

—2022年に郷土の歴史を紹介する本『北原川の歴史探訪』を自費出版されたそうですが、なぜ本を出そうと思われたのですか。

市役所に入庁後、最初に配属された先が文化財などを担当する部署でした。縄文時代の遺跡の発掘現場を見学した時、出土した石器の矢じりが長野県産の黒曜石から作られた物だと聞き、驚きました。移動が困難だったはずの時代に交流があったことを知り、俄然歴史に興味を持つようになりました。

地元の遺跡では日本最古の貨幣といわれた和同開珎3枚に加え、同時代の墨書土器も多数発見されました。そのことから中央の文化が自分の住む地域にも浸透していたのだと知って、感動しました。さらに、江戸の名奉行として知られる大岡越前守忠相が、この地にある祖父の菩提寺を再興していたことにも驚きました。身近なところに先人たちからの贈り物がいくつもあつた事実を知ること、郷土の歴史について興味を深めていきました。

その一方、社会構造の変化や核家族化で伝承文化が継承されにくくなっていると感じていました。そのため、50歳代の頃から個人で少しずつ関係資料を集めるようになり、65歳の時に「郷土の歴史探訪本を作るのが、私が次の世代に残せる最後の仕事。その時は今だ！」と思い、出版しようと決めました。



初盆の家庭では小学生の子供念仏により盆供養が行われる。盆初日の夕方、盆太鼓を打ちながら、小学生が盆車や笠んぶく(大きな和傘の周りを赤い布で囲んだもの)と共に訪れ、家の前で念仏を唱える

旧東海道の松並木が、今も土塁と共に約2km続く



2022年に自費出版された『北原川の歴史探訪』はA4サイズで82ページの構成。写真や資料が数多く掲載されるなど読みやすい工夫がされている



——歴史探訪本を作るためには郷土の歴史に関する多くの情報を集める必要があると思いますが、どんな方法で収集されたのですか。

地元の図書館で所蔵している市史や郷土史、古文書その他、市教育委員会が発行しているパンフレットや参考図書から拾い出しました。私は地元の郷土史研究グループに所属しているので、メンバーから情報収集することもありましたし、古老から直接お話を伺ったこともありました。

それまでは単なる田舎町で何も無いと思っていた地元にも、多くの貴重な歴史や遺産があると知って愛着を持てるようになりましたし、そのことを多くの人にも知ってほしいと思うようになりました。

先人が残してくれた歴史・文化遺産は言い伝えや記憶により継承されてきましたが、私はそれらを「伝承記」として残したいと思いました。それに本を出版すれば、それを読んだ若い人や将来を担う子どもたちが、生まれ育った地域の歴史をより深く知って、愛着を持つのではないかと考えたのです。

——本を出版するにあたり、こだわられたことは何ですか。

誰もが読めるような文字の大きさにすること、小中学生でも理解できるやさしい表現とわかりやすい言葉で書くこと、写真を多く掲載することの3点です。文章はすべて自分で書き、パソコン入

力したデータを印刷会社に渡しました。出版した400部は非売品で、店頭販売はしていません。市内の図書館やコミュニティセンターといった公共施設、学校などには寄贈し、希望者には原価で販売しています。出版後、地元の新聞に取り上げられたことで、県内各所から問合せが来しました。

——今後やりたいことは？

ポケ防止のために「大人のピアノ教室」に通って加山雄三や谷村新司などの曲に挑戦していますし、最近では「初めての英会話教室」にも通い始めました。今後は、自分のルーツについても調べてみたいと考えています。

——最後に、30代〜50代の読者へ向けてメッセージをお願いします。

30歳〜50歳代は、次のステップに向けて知識を吸収する年代であり、自分が「これだ！」と思ったことに挑戦する年代です。毎日仕事で忙しく、時間がないと感じているかもしれませんが、「時間」は考え次第で、作ればいくらでも出てきます。

私は子育て世代だった時、子どもに自分の背中を見せようと読書を始めましたが、それは結果的に自分自身の知識の獲得や人生の栄養ドリンクとなりました。何でもよいので、自分の思ったことを納得するまで実行できれば、後悔はしないと信じていますよ。